

<< 注 意 報 >>

岡 病 防 第 11 号
令和 7 年 8 月 6 日

各 関 係 機 関 長 殿

岡山県病虫害防除所長

病虫害発生予察情報について

病虫害発生予察注意報第 1 号を下記のとおり発表したの送付します。

令和 7 年度病虫害発生予察注意報第 1 号

令和 7 年 8 月 6 日
岡 山 県

病虫害名 **斑点米カメムシ類（アカスジカスミカメ等）**

- 1 発生が予想される地域
県内全域
特に、山寄りの水田、山間棚田、イネ科雑草繁茂地の周辺の水田
- 2 発生の蔓延が予想される時期
水稻の出穂期以降
- 3 予想される発生量
多
- 4 注意報発表の根拠
 - (1) 7月下旬の牧草地のすくい取り調査（20 回振り／ほ場）によると、**アカスジカスミカメは 128.5 頭で平年(58.3 頭)の 2.2 倍、イネホソミドリカスミカメは 11.6 頭で平年(3.9 頭)の 2.9 倍と多い。**
 - (2) 8月上旬の牧草地のすくい取り調査によると、**アカスジカスミカメは 413.4 頭(前回 7月下旬調査の 3.2 倍)、イネホソミドリカスミカメは 53.2 頭(同 4.6 倍)と依然高いレベルである。**
 - (3) 広島地方気象台の 7 月 31 日発表の季節予報によると、向こう 1 か月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、気温が高いと本虫の加害や増殖に好適な条件となる。
- 5 防除対策
 - (1) 斑点米カメムシ類にとってイネ科植物の穂は餌であり、産卵場所でもあるため、水田畦畔及び周辺の草刈りを徹底する。ただし、穂の付いたイネ科植物を水稻の出穂 2 週間前から 3 週間後の間に除去すると、斑点米カメムシ類を水田に追いやり、被害を助長することになるので避ける。
 - (2) 斑点米カメムシ類の防除は 2 回必要とされており、主要発生種がアカスジカスミカメ、イネホソミドリカスミカメである場合は以下の防除時期となる。
 - 1 回目の防除：穂揃期（ほ場全体の 80～90%が出穂した状態）
 - 2 回目の防除：1 回目の防除から 7 日後

注) ホソハリカメムシ、クモヘリカメムシ、トゲシラホシカメムシ、シラホシカメムシなどが主要発生種である場合、1回目の防除は穂揃期の3～7日後(乳熟初期)、2回目の防除は1回目の防除から7日後である。

主要発生種がいずれの場合も、その後の発生が多ければ、3回目の防除を2回目の防除から7日後に行う。

イネカメムシが主要種である場合、1回目の防除は出穂期直後、2回目の防除は1回目の防除から7～10日後である。

- (3) 休耕田でイネ科植物が繁茂している場合は、休耕田のカメムシ類を対象とした薬剤防除を行うこともできる。
- (4) 水稻のカメムシ類防除に使用する主な薬剤は、表のとおり。農薬を使用する前には必ず農薬ラベルの記載内容を確認する。薬剤防除は農薬使用基準を厳守し、人畜、生活環境動植物等への被害防止に努め、安全・適正に使用するとともに、周辺農作物等へ飛散しないよう十分注意する。水田に農薬を散布した後は、少なくとも7日間は落水・かけ流しをしないようにする。

6 防除上の参考事項

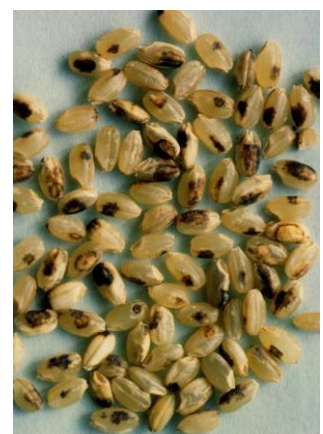
- (1) 極早生品種、早生品種栽培地帯では出穂期～穂揃期に斑点米カメムシ類の発生が多くなり、被害が出やすい。
- (2) 周辺より出穂の早い水田では集中的に飛来してくる傾向があるので防除の徹底を図る。
- (3) 斑点米カメムシ類は、山間棚田、山寄りの水田、イネ科雑草繁茂地の周辺の水田で発生が多い。
- (4) 出穂直後から20日後までを加害時期とするアカスジカスミカメ及びイネホソミドリカスミカメは、淡緑色を帯びており、体長が5～6mm程度と小さく肉眼で確認しにくいいため、本田での発生の把握には捕虫網によるすくい取り調査が必要である。
- (5) 出穂直後から収穫期までの全期間を加害時期とするホソハリカメムシ、クモヘリカメムシ、トゲシラホシカメムシ、シラホシカメムシは、前者の2種が体長10～17mm程度と大きいこと、後者の2種が体長5～7mm程度と小さいものの灰褐色～黒色で見分けやすいことから、本田での発生が肉眼で確認できる。
- (6) 斑点米カメムシ類の発生は、本田の畦畔近く(本田の周縁部)で多く、中央部で少ないとされており、発生密度に偏りがある。よって、すくい取り調査や肉眼による観察は本田の畦畔近くで行う。



アカスジカスミカメ成虫
(体長約5mm)



イネホソミドリカスミカメ成虫
(体長約4.5～6.5mm)



斑点米

表 水稲のカメムシ類の防除に使用する主な薬剤（令和7年6月現在）

薬剤名	剤型	農薬使用基準			IRAC コード	
		希釈倍数・使用量	使用時期 (収穫前日数)	総使用回数 (有効成分)		
トレボン*	粉DL	3～4 kg/10a	7日前まで	本田：3回以内 休耕田：3回以内	3 A	
		3～4 kg/10a（休耕田）	—			
	乳，MC	2,000倍	14日前まで			
		2,000倍（休耕田）	—			
	EW	1,000倍	14日前まで			
1,000倍（休耕田）		—				
トレボンエアー*		8倍（無人航空機散布）	14日前まで			
スタークル・ アルバリン	粉DL	3 kg/10a	7日前まで	本田：3回以内 休耕田：3回以内	4 A	
		3 kg/10a（休耕田）	—			
	粒	3 kg/10a	7日前まで			
	顆溶	2,000倍	7日前まで			
		2,000倍（休耕田）	—			
スタークル豆つぶ	(豆粒)	250g/10a	7日前まで			
スタークル1キロH粒剤	粒	1 k g /10 a （無人航空機散布）	7日前まで			
ダントツ	粒	3～4 kg/10a	7日前まで	本田：3回以内 休耕田：4回以内		
	粉DL	3～4 kg/10a	7日前まで			
		3～4 kg/10a（休耕田）	—			
	溶	4,000倍	7日前まで			
		4,000倍（休耕田）	—			
	フロアブル	5,000倍	7日前まで			
24倍（無人航空機散布）		7日前まで				
キラップ**	粉DL	3～4 kg/10a	14日前まで	本田：2回以内 休耕田2回以内	2 B	
		4 kg/10a（休耕田）	—			
	粒	3 kg/10a	14日前まで			
	フロアブル	1,000～2,000倍	14日前まで			
		8倍（無人航空機散布）	14日前まで			
	2,000倍（休耕田）	—				
エクシード	粉DL	3 kg/10a	7日前まで	本田：3回以内 休耕田：3回以内	4 C	
		3 kg/10a（休耕田）	—			
	フロアブル	2,000倍	7日前まで			
		16倍（無人航空機散布）	7日前まで			
		2,000倍（休耕田）	—			
エミリア	フロアブル	1,000倍	7日前まで	本田：2回以内	4 F	
		8倍（無人航空機散布）	7日前まで			

農薬を使用する前には、必ず農薬ラベルの記載内容を確認する

*の薬剤は、水産動植物に対する危害が発生するおそれのある地域では使用しない。

**の薬剤の有効成分である「エチプロール」を含む農薬の総使用回数は2回以内であるため、総使用回数を超過しないよう注意する。

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。
アドレスは、<https://www.pref.okayama.jp/soshiki/239/> です。

